

令和元・2・3年度 武蔵野市教育委員会教育課題研究開発校

深い学びの実現

～説明的文章の指導を通して～



手だて①

学習過程の工夫

3つの手だて

手だて②

働きかけの工夫



手だて③

可視化の工夫



令和4年1月21日

武蔵野市立桜野小学校

研究構想図

<社会的な背景>

- ・知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の3つの力をバランスよく身に付けることの重要性が示されている。
- ・そのために、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善を推進することが求められている。
- ・児童の学びの質の向上や資質・能力の育成のために言語能力の向上が求められている。

<学校目標>

- ◎思いやりのある子ども
- 自分の考えをもつ子ども
- 明るく元気な子ども

<児童の実態>

- ・目標やめあてをはっきり意識して、授業に取り組む児童が多い。
- ・授業後、自分がどのような力を付けたのか自覚したり、学んだことを、次の学習や他教科に生かそうとしたりすることに課題がある。

研究主題

深い学びの実現 ～説明的文章の指導を通して～

桜野小の「深い学び」とは…

- ①「学ぶ・使う・生かす」という学習過程の中で
- ②知識・技能を関連付けながら考え
- ③次の学習に生かすことに向かう学びのこと

目指す児童像

身に付けた知識・技能を関連付けながら考え、
自分の学びに生かそうとする児童

<研究仮説> 「学ぶ・使う・生かす」の学習過程の中で、教師の働きかけを工夫し、身に付けさせたい知識・技能を可視化することで、学んだことを関連付けて考えたり次の学習に生かそうとしたりする児童の「深い学び」を実現させることができるだろう。

<授業研究の手だて>

- ① 学習過程の工夫【学んだことを生かす場面を作るため】
- ② 働きかけの工夫（A思考を促す B思考を深める）【深い学びにつなげるため】
- ③ 可視化の工夫【知識・技能を全員が分かる・使えるようにするため】

<日常の取組の手だて>

- ①「学んだ事を使う・生かす」ことを意識付ける・価値付けるための掲示物の活用
- ② 学んだことを明確にするための意識調査の実施
- ③ 意識調査を基にした、振り返りの時間の設定

【各学級】

国語科をはじめとする各教科等での「深い学び」の実現に向けた授業実践

【こぶし教室】

集団生活へのスムーズな参加や読む・書くなどの特定の分野の困難さへの支援
※こぶし教室の仮説・視点での実践

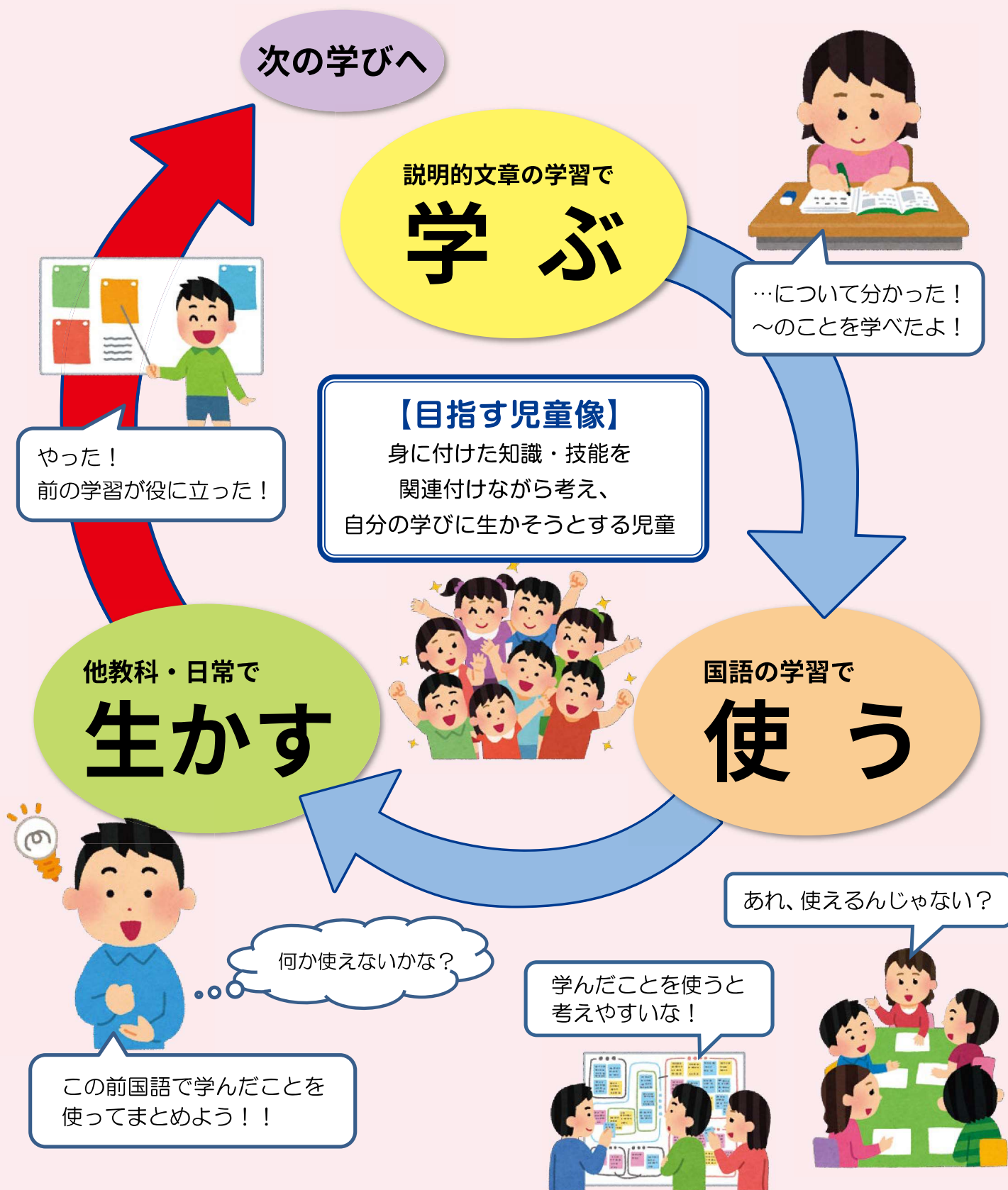
通級指導学級

【こだま学級】

言葉による表現や、読み書きの困難さへの支援
※こだま学級の仮説・視点での実践

桜野小が目指す「深い学び」とは？

「学ぶ・使う・生かす」という学習過程の中で、
知識・技能を関連付けながら考え、
次の学習に生かすことに向かう学び のこと



手だて① 学習過程の工夫…学んだことを使う・生かす場面を作る

1年	学ぶ	『くちばし』 問いと答え	『うみのかくれんぼ』 事柄の順序 場所・体・隠れ方	『じどう車くらべ』 事柄の順序 はたらきとつくり	『どうぶつの赤ちゃん』 共通点や相違点を 捉える
	使う・ 生かす	【国語】 「問い」と「答え」の関係を使っ て他の鳥の「くちばしクイズ」 を作り、問題を出し合う。	【国語】 「住んでいる場所・体の様子・ 隠れ方」を順にまとめて、「生 きものブック」を作る。	【国語】 「働きとそのためのつくり」に 気を付けて自動車図鑑を作る。	【国語】 好きな動物の赤ちゃんについ て図書資料を活用して調べ、 紹介し合う。
2年	学ぶ	『たんぽぽのちえ』 時間的な順序・わけ	『どうぶつ園のじゅうい』 事柄の順序 (時・仕事・工夫)	『馬のおもちゃの作り方』 事柄の順序 (作り方の説明)	『おにごっこ』 事柄の順序 (遊び方・困ること・解決したこと)
	使う・ 生かす	【国語】 「時間的な順序やわけ」を意識 しながら生き物の生態につい て図書資料で調べてまとめる。	【生活】 「時・仕事内容・工夫」に気を 付けて給食の調理員の仕事に ついて調べ、まとめる。	【生活】 自分が作った動くおもちゃの 作り方を順序に気を付けてま とめる。	【国語】 「事柄の順序」に気を付けて、 自分が調べた遊びを紹介する。
3年	学ぶ	『言葉で遊ぼう／こまを楽しむ』 段落の中心を捉える	『すがたをかえる大豆』 段落相互の関係を捉える (事例の順序)	『ありの行列』 問いから答えを導くための 考えの進め方	
	使う・ 生かす	【総合】 段落のまとまりを意識して飼育し た蚕についてまとめる。	【国語】 事例やその順序に気を付けて、食 べ物のひみつを調べてまとめる。	【理科・総合】 実験や観察をしたり、調べたりし たことを基に、自分の考えをもっ たりまとめたりする。	

手だて② 働きかけの工夫…知識・技能を身に付けるために、より深く思考できるようにする

思考を促す働きかけ

疑問や課題意識をもって、取り組める
ような働きかけをする。

思考を深める働きかけ

ねらいに沿って、より確実な理解や深
い思考ができるような働きかけをする。

発 問

リライト文

具体物

疑問の共有

教材の提示



発 問

新たな資料の
提示

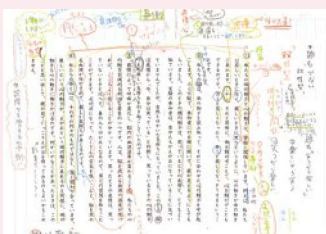
新たな疑問点の
提示



4年	学ぶ	『思いやりのデザイン／アップとルーズで伝える』 対比 文章の型（双括型）	『世界にほこる和紙』 中心となる内容を要約する	『ウナギのなぞを追って』 興味をもった部分を要約する
	使う・生かす	【国語】 対比や双括型など、学んだ説明の工夫を生かしてスピーチをする。	【社会】 東京都の伝統工芸がさかんな地域について書かれた図書資料を要約し、リーフレットにまとめる。	【国語】 科学読み物を読んで、興味をもった部分を要約して、紹介文を書く。
5年	学ぶ	『見立てる／言葉の意味が分かること』 要旨を捉える	『固有種が教えてくれること』 文章と図表を関係付けて読む	『想像力のスイッチを入れよう』 事例と意見
	使う・生かす	【国語】 新聞記事や本の文章の要旨を捉えて、考えたことを話し合う。	【社会】 グラフや図表を用いて、「これからの日本の食料生産」について自分の考えをまとめる。	【国語】 メディアとの関わりについての自分の考えを、事例を挙げて説明する。
6年	学ぶ	『笑うから楽しい／時計の時間と心の時間』 主張と事例・筆者の意図	『「鳥獣戯画」を読む』 表現の工夫	『メディアと人間社会／大切な人と深くつながるために』 複数の文章を読み、考えを形成する
	使う・生かす	【社会】 縄文・弥生時代のどちらが幸せな時代か、「主張と事例」の図を用いて考えをまとめる。	【国語】 学んだ表現の工夫を使って、外国の方に紹介するパンフレットを作る。	【社会】 複数の資料を整理しながら、自分の考えをまとめ、表現する。

手だて③ 可視化の工夫… 知識・技能を捉えやすくし、全員が分かる・使えるようにする

1枚プリント



挿絵の活用



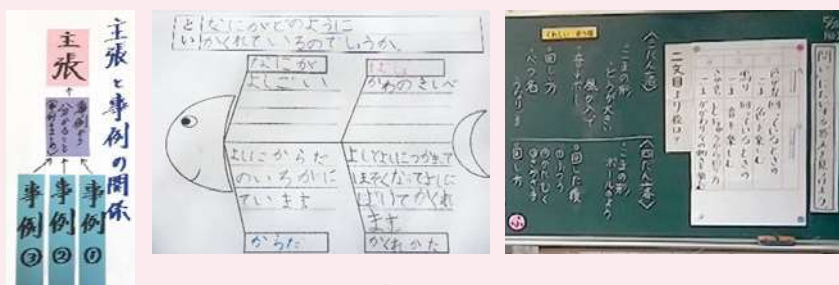
付箋・操作できるカード



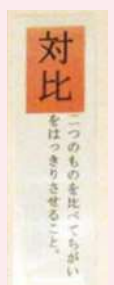
色分け・短冊



図表・思考ツールの活用



用語の掲示



手だて① 学習過程の工夫

言語活動を帯で設定する工夫

「言語活動を帯で設定する工夫」とは



まずは、筆者の説明の工夫を捉えやすくするために、単元の中で同形式のワークシートを用いた。さらに、授業で学んだ筆者の説明の工夫をその授業の振り返りの時間に使う（本番の下書き程度）場面を設定した。

〈第1次〉



〈第2次〉



実践例 4年「思いやりのデザイン」「アップとルーズで伝える」
本時の授業（第7時 9時間扱い）

単元名「解き明かそう、説明のプロの技！」

～説明名人になろう～

同形式のワークシートを用いることで、二人の筆者の用いた対比構造にも気付く発言が見られた。また、学んだ説明の工夫を使ってすぐに構想図に下書きを書いておくことで、多くの児童がスムーズに言語活動へとつなげることができていた。

学んだ説明の
工夫を使って…



論理的文章構成に気付くことができる学習過程の工夫

「論理的文章構成に気付くことができる
学習過程の工夫」とは



時間的な順序や事柄の論理を読み取ることができるよう、着目すべき言葉を明確にして指導した。探究場面では、思考ツールを活用し、文中から必要な情報を捉えて整理し、感想をもったり、文章をまとめたりする学習計画の型を繰り返し設定した。

実践例 2年「たんぼぼのちえ」

本時の授業（第6時 10時間扱い）

単元名「じゅんじょに気をつけて読もう」

～たんぼぼのちえ～

導入で「生き物不思議発見」というクイズを出し、動植物には様々な生きる知恵があることを捉え、児童の興味・関心を高める取り組みを行った。また、本文から、時間的な順序や事柄の論理を読み取ることができるよう、着目すべき言葉を明確にし、思考ツール（昨年度は「フィッシュボーン」、今年度は「なぜなにシート」）を活用して、情報を整理したり、論理的な文の組み立てを捉えやすくしたりする指導を行った。

あさがおがかれたあと、花びらが落ちるのではなく、さいごにクシュッとなるのは、どうしてだろう？



わたしが、あそびのたんぼぼのちえと
つなげよう！

手だて② 働きかけの工夫（思考を促す・思考を深める）

思考を深めるための発問の工夫

「思考を深めるための発問の工夫」とは



授業の中で

【思考を促す発問】⇒【思考を深める発問】と2段階の発問を投げかけることで、児童に本単元で着目させたい「筆者の意図」について考えさせた。児童の気付きや発言に応じて、いくつかの発問を用意して授業に臨んだ。

実践例 6年「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」

本時の授業（第6時 7時間扱い）

単元名「筆者の主張や意図をとらえ、
自分の考えをまとめよう」

4つの事例を挙げた意図を問う発問だけでなく、筆者の主張の内容やその意図に迫る発問をすることで、「筆者の主張の内容がより理解できた」「筆者はこんな思いをもって、この説明文を書いたのだ」と、感想をもつことができた。

【思考を促す発問】 筆者はなぜこの4つの事例を挙げたのだろう。



【思考を深める発問】

- ・なぜ、「心の時間」の事例しか挙げられていないのだろう。
- ・なぜ両方の時間が大切なのだと筆者は述べているのだろう。

考えを深めたいところに児童の思考が向かうように、
2段階の働きかけを準備しておいた。



問いと答えの関係性を捉えるための働きかけ

「問いと答えの関係性を捉えるための働きかけ」とは



児童が、「問いと答えがある」ということだけでなく、「くちばしの形、問い、答え、くちばしの使い方、食べ物、という順で答えが書かれている」ということにも気付けるように、文章ごとの短冊を作り、並び替える活動を行った。さらに問いと答えの関係性について理解を深めるために、なぜその順に並べたのかを問い、児童の思考を促した。

実践例 1年「くちばし」

本時の授業（第5時 7時間扱い）

単元名「くちばしくいずをつくろう」

児童がグループで並び替えを行った後、全体でなぜこの順になったのかを考えた。教員が短冊を誤った順に入れ替えることで、児童は「問いの後には答えがくるから。」「くちばしの形はヒントになっているから問いの前。」など、正しい順になる理由を述べながら考えることができた。



手だて③ 可視化の工夫

主体的に文章の共通性に気付く掲示

「主体的に文章の共通性に気付く掲示」とは



「段落の中心を捉えやすい掲示」

「問い」と「答え」の色分け

段落の内容を整理した囲みや説明

同じパターンの6つの段落を並べて掲示



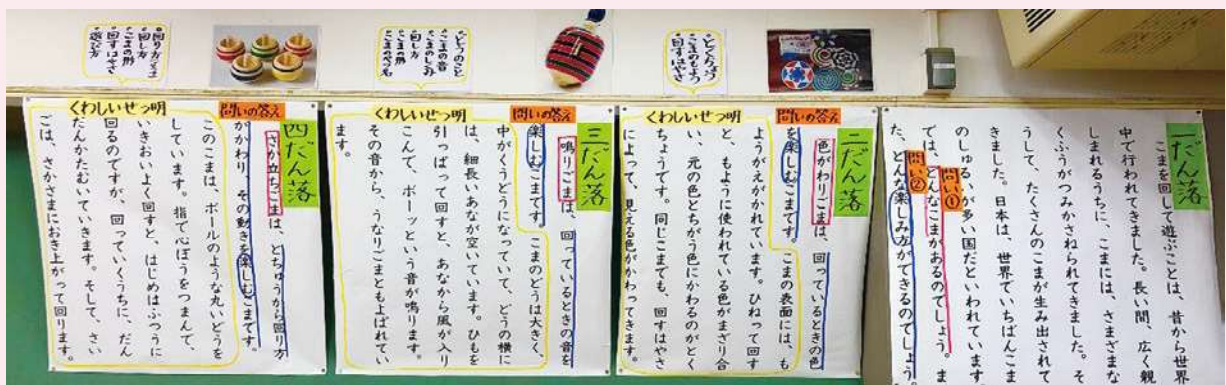
実践例 3年「こまを楽しむ」

本時の授業(第5時 9時間扱い)

単元名「段落とその中心を捉えて読み、感想を伝え合おう」

段落の内容を整理した掲示を活用したことで、各段落や文章全体の構成に児童自ら気付くことができた。

また、「問い」に対する「答え」を見付けるだけの簡易的な作業にならないように2文目以降も丁寧に読むことで、「答え」が段落の中心になっていることを捉えることができた。



文章全体の構成を捉えやすい資料

「文章全体の構成を捉えやすい資料」とは



教材文が一目で分かる1枚資料

始め—中—終わりの構成が分けられ、内容の中心や筆者の主張と事例とのつながりに気付くことができるワークシート

文章全体がどのように構成されているのか(段落ごとの内容、内容の中心・筆者の主張と事例とのつながり)を視覚的に捉えやすくすることができる。

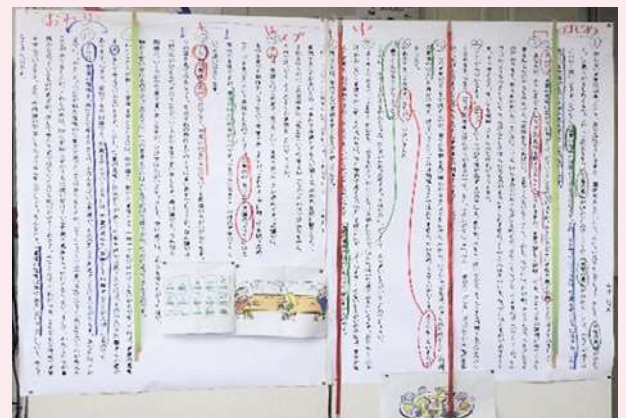
実践例 5年「言葉の意味が分かること」

本時の授業(第5時 9時間扱い)

単元名「文章の要旨の捉え方を考え、筆者の考えに対する自分の考えを伝え合おう」

前時までに読み取った文章の三部構成を確認し、「中」の文章が大きく3つの事例のまとまりになること、それらの事例と要旨(内容の中心や筆者の主張)とのつながりについて考えた。

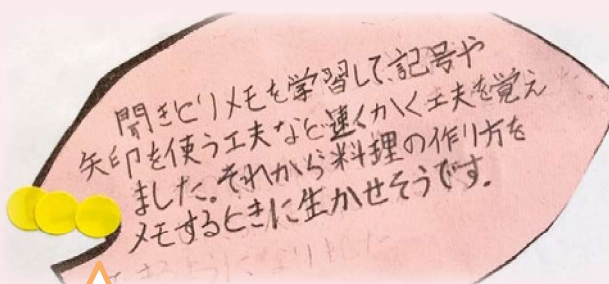
1枚にした説明文の資料や段落の内容をまとめたワークシートを用いることで、要旨と事例との関係を整理したり、文章全体の構成を捉えたりする姿が見られた。



日常の取組の手だて

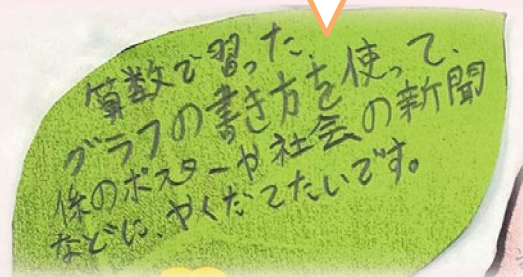
①「学んだことを使う・生かす」ことを意識付ける・価値付けるための掲示物（つかウッド）の活用 …学んだことを次の学びに生かそうとする意欲を高める

学んだことをどのように「生かしたか」「生かせそうか」、一人一人が書いたものを貼り、教室に常時掲示する。



友達の意見の中で自分も実践してみたことがあったら、黄色いシールを貼っていく。

国語での学びから生かせることは花びらに、他教科での学びから生かせることは葉っぱに書いた。



②意識調査の活用

③振り返りの時間の設定

…児童が学んだ事を自覚できているか意識調査で把握する。

意識調査後、「学んだこと」や「どのようなことに生かせそうか」について、学級全体で確認したり共有したりする。

意識調査

学級で共有

「生かそう」という意識向上



4～6年はGoogle フォームでアンケートをとりました。

- ・〇〇の学習で何を学びましたか。
- ・学んだことをどう生かしましたか。
- ・どのようなことに生かせそうですか。

【学んだ事の確認】

〇〇の学習では「要旨の捉え方」を学びましたね



アンケートの
ふり振り返り

【生かし方の共有】

〇〇さんが「読書紹介」で生かしたいと書いていたよ。いい方法ですね。

「私も、読書紹介で使ってみよう！」
「委員会の活動でも使えそうだな！」
「他にも使える場面はないかな？」

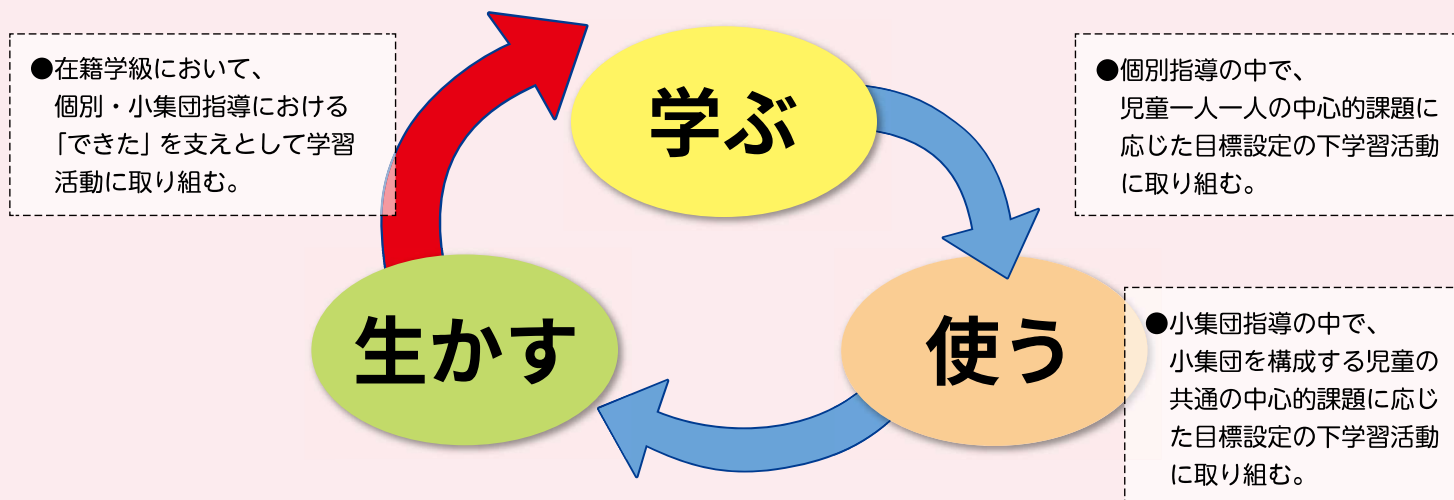


児童の『できた』を支える小集団指導の工夫

～児童の事例分析と的確な目標設定を通して～

【研究仮説】

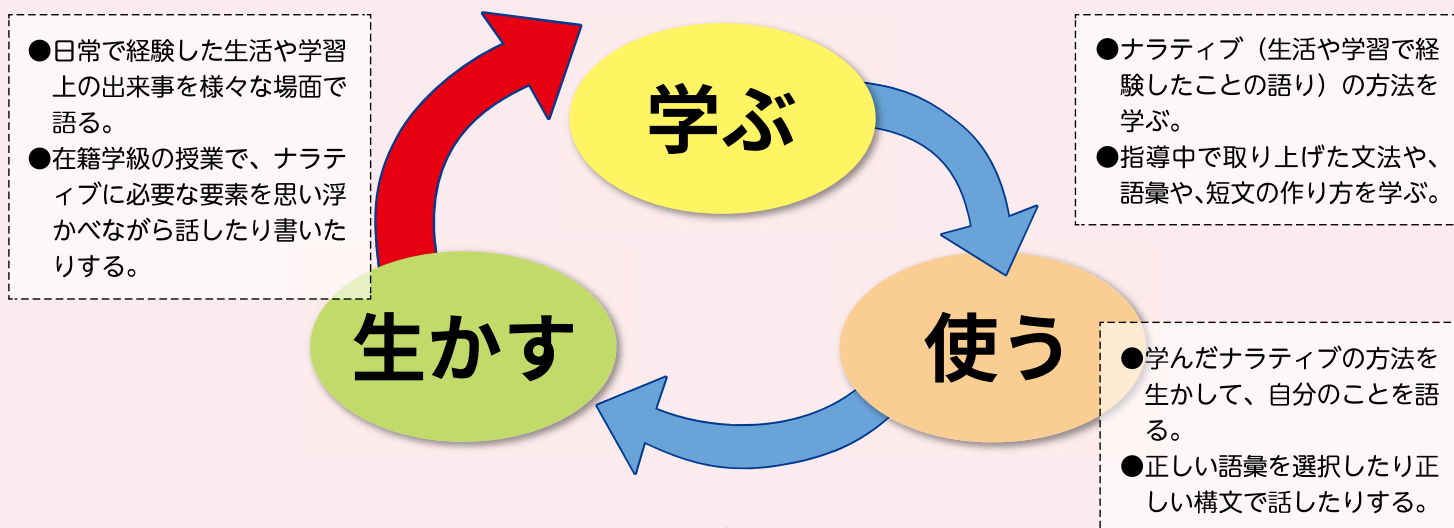
事例分析を踏まえた児童一人一人のニーズに応じた的確な目標を設定し、特別支援教室における小集団指導をすることで、児童の「できた」を支えることができるのではないか。



学習・生活に生かせるナラティブ指導

【研究仮説】

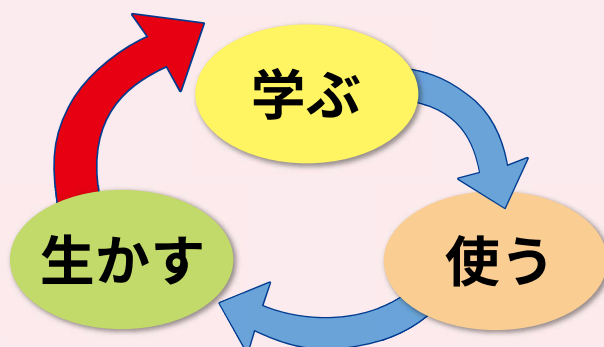
「ナラティブ指導」をパッケージ通りに進められる児童と、その指導に合わない児童がいる。前年度までの研究で、それは児童の特性によって大まかに予測がつくことが分かった。「ナラティブ」について明示的な指導を行うことは効果が高い。指導パッケージを児童の特性に合わせて工夫することによってその力を伸ばすことができるのではないか。



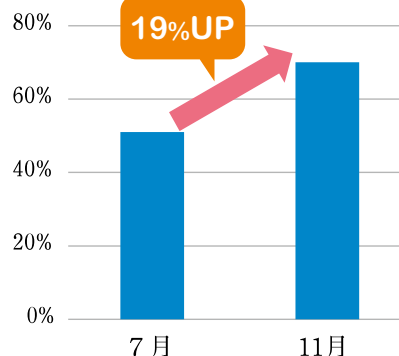
研究の成果と課題

成果

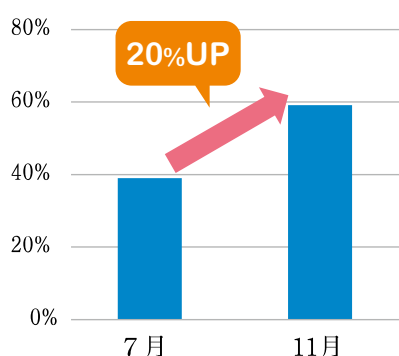
- ①「何を学び、それをどう生かしたか」自覚できる児童が増えた。
- ②「どのようなことに生かせそうか」イメージしながら学習に取り組む児童が増え、児童の学んだことを生かすことに対する意欲が高まった。
- ③ 国語のみならず、その他の教科・領域において、児童の深い学びのための工夫や授業改善に取り組む教員の意識や技能の向上が見られた。



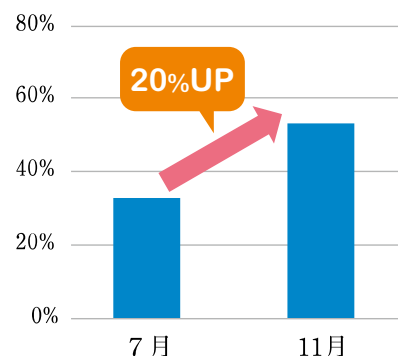
説明的文章の学習で学んだことを自覚できた児童の割合



説明的文章の学習で学んだことを教科等で生かすことができた児童の割合



説明的文章の学習で学んだことを教科等で生かそうと思う児童の割合



児童に対する意識調査結果(令和3年7月・11月実施)

課題

- ・ 3年間、国語の説明的文章の指導を通して「学ぶ・使う・生かす」という学習スタイルが定着してきた。今後はさらに他教科・他領域でも「学んだことを使う・生かす」学習過程になるよう、単元開発を継続していく。
- ・ 学校行事等の特別活動でも「何を学ぶか・どう生かすか」を意識させることで、「学んだことを使う・生かす」ことへの児童の意欲や満足感を高めていく。

ご指導いただいた先生方

田村 学 先生（國學院大學教授）
 細川 太輔 先生（埼玉学園大学大学院客員准教授）
 有澤 直人 先生（江戸川区教育委員会教育指導調査員）
 入山満恵子 先生（新潟大学准教授）

研究に携わった教職員

令和3年度 研究主任◎ 研究推進委員○

校 長	金子 圭子	副校長	本橋 忠旗	主幹教諭	福澤 真吾 米倉麻起子	指導教諭	井出好太郎
1 年	塚本 聡子	中野かほり	加藤 啓明	○梯 朝香	齋藤 智也		
2 年	富田 史子	越川 唯	○相馬 一慶	清水 俊輔	鹿又 逸君		
3 年	○川端麻紀子	白澤 栄喜	永田 風香	○中村 正人	森安 美穂		
4 年	○勝二 弘子	高橋 由香	齊藤 寛	秀島 直哉			
5 年	諏訪 晶子	上岡 未来	○米澤 吉宏	○伊藤 弘紀	船木 湧斗		
6 年	濱垣 貴英	◎中野紗耶香	福澤 真吾	森 優紀			
専 科	南 聡美	○石井 優絵	稲井 宥香	米倉麻起子	大高あゆか	高嶋智佳子	
こぶし 教 室	○植草 葉月	天達 亮子	高橋 候輔	○松原 英司	堀田 美帆	高橋 詩織	
	國房 逸美	廣瀬 智	特別支援教室 専門員	友杉 敦子			
こだま学級	○葭岡 晃世	井出好太郎	藤井 朋香	池谷 謙介	板倉 陽子	後藤亜紀子	
養 護	吉田 千明	吉川 祥平	産育休	河合 梨沙	田野 夏穂		
講 師	秋山 晶子	小川 一平	疋田 正恵	田中 純江	栗原トシ子	土屋 仁美	
	海東 一美	落合恵利香	大坂 慶三	学校図書館 サポーター	一河 奈央	田村 雅浩	
市学校用務	荒井 清	田中 裕治	栄養士	染谷 志穂	西村美稚子		
都事務主事	鎌内 利治	小椋 道乃 (補助)	市学校事務	山田 千秋	林 祥子	濱村由紀子 (補助)	

令和3年12月1日現在

令和2年度 上松 達三 原田 理沙 水井美智子 長谷川海洋 池田由美子 高野 亮 今井 結花
 富田 孝子 高橋 里美 亀井由美子 宮原 明彦
 令和元年度 大村 幸子 中瀬 雅美 飯島 直美 小暮 寛 菊池 理乃 大塚 香織 富岡 眞美
 石塚 陽介 山倉 恵 野嶋みゆき 益子 茂子 鈴木由紀子 豊泉 京子 宇治川美晴